

水土里ネットの和

発行：水土里ネット和歌山（和歌山県土連） 和歌山市雑賀屋町1番地

会長：二階俊博 TEL：073-432-2567 FAX：073-433-1490



主な内容 (CONTENTS)

| | |
|-------------------------------------|---|
| ○新年のご挨拶（二階俊博会長、宮崎まさお全国水土里ネット顧問） | 2 |
| ○第41回全国土地改良大会（宮城大会）への参加 | 4 |
| ○平成30年度農業農村整備の集い（11月）への参加 | 5 |
| ○平成31年度農業農村整備予算の確保に向けた提案活動 | 5 |
| ○和歌山県土地改良区役職員研修 | 6 |
| ○第5回わかやまの棚田・段々畑サミットへの参加 | 6 |
| ○平成30年度第2回監事会及び理事会の開催について | 7 |
| ○農業農村整備事業平成31年度当初予算、平成30年度補正予算が閣議決定 | 7 |
| ○水土里ネット和歌山からのお知らせ | 8 |

新年のご挨拶



新年にあたって

水土里ネット和歌山
和歌山県土地改良事業団体連合会
会長 二階 俊博

平成31年の年頭に当たり、土地改良に携わる皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。昨年また、我が国は非常に多くの災害に見舞われました。6月には大阪北部地震が、6月下旬から7月上旬にかけては、西日本を中心に、北海道や中部地方など全国的に広い範囲で台風7号および梅雨前線等の影響による集中豪雨が、9月には北海道胆振東部地震が、また、7月から9月にかけては5度に及び台風が我が国に上陸し、多大な被害をもたらしました。本県でも台風21号の暴風により、果樹の倒木、枝折れ、ハウスの倒壊など、県内農業に甚大な被害を残しました。被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧が出来ますよう、私どもとしても一体となって全力を尽くしたいと思います。

さて、私は会長に就任以来、民主党政権時代に七割近く削減された状況であった予算をまずは復活させようと、「闘う土地改良」の重要性を訴え、予算獲得に向け本気になって取り組んで参りました。全国の皆様の大きな力によって、平成31年度当初予算は、重要インフラの緊急点検等を踏まえた防災・減災、国土強靱化のための緊急対策546億円を含めて4,963億円、平成30年度の第2次補正予算1,488億円を合わせると、6,451億円となりました。ひとえに皆様方のご尽力の賜であると、心から感謝致します。

また、土地改良の代表を再び国会へ送り込むとの強い決意のもと、私たちの代表として当選された進藤かねひこ参議院議員も全国を飛び回り、元気に頑張っており、その評価は極めて高いものがあります。今後は、進藤さんの活動と連携して、更に一層「闘う土地改良」の浸透が図られるよう念じております。更には、進藤議員と車の両輪たらしめる宮崎まさお氏も、来たるべき闘いに向けて、全国の皆様の所へ伺っているところであります。

今、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。

このような状況の中、昨年の通常国会では改正土地改良法が成立し、土地改良にとって、二年続けて改正された新しい土地改良法を基軸に、新たな展開を図る大きな節目の年となります。

私たち土地改良担当者としては、これら政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におきつつ積極的に貢献していくことが重要であると考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様にアピールし、共感を得ていく努力が必要と考えます。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう、引き続き奮闘して参りたいと思います。

最後になりますが、本日、輝かしい年の初めに当たり、本年も農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、本年が本会会員の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げまして、私の新年のご挨拶といたします。



「闘う土地改良」－未来への礎を築くために

全国水土里ネット会長会議
顧問 宮崎まさお

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、良き年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

私にとっては、いよいよ決戦の年となりました。

全国の関係者の皆様の土地改良に対する熱い思いに触発され、全国水土里ネットの二階俊博会長が提唱された「闘う土地改良」の旗のもと、不退転の覚悟で政治活動に取り組むことを決意し、一昨年末、30年間勤めた農林水産省を地域整備課長を最後に退職しました。昨年1月には全国水土里ネット会長会議顧問を仰せつかり、この一年間、全国各地で地域の実情や意見をつぶさに拝聴させていただきました。これまでの移動距離は地球5周分の20万kmになりました。

昨年は、西日本豪雨や北海道胆振東部地震をはじめとする地震、台風、さらには噴火など、全国各地で自然災害が相次ぎました。被災された方々にお見舞いを申し上げるとともに、被災地の一日も早い復旧・復興を願ってやみません。また、被災地の状況をお聞きするたびに、防災・減災対策は一刻の猶予も許されないとの思いを強くしています。

土地改良は、先人が創り上げてきた農地やかんがい排水施設などをそれぞれの時代に応じて整備を行い、次の世代に引き継いでいくシステムです。つまり、土地改良は、現在の農業の発展はもとより、日本の「未来への礎」を築くものであると考えています。

私は、現場でお聞きした様々な課題を解決し、日本のすばらしい農山漁村を「未来への礎」として、子どもや孫たちに引き継いでいくため、「大切な農地と水を守る」「農山漁村を災害から守る」「美しい農山漁村を守る」という3つの目標のもと、これを実現するため、土地改良の安定的な予算確保や災害に強い農山漁村づくりなど、7つのチャレンジに全力で取り組んでいく考えです。

とりわけ土地改良予算については、「闘う土地改良」の旗のもと、関係者の努力により回復基調にはありますが、地域の切実な要望に応えるためには、当初予算の回復・拡大が必要です。国政の場において、進藤金日子議員が「闘う土地改良」の先陣を担っておられますが、私もその一翼となれるよう、全身全霊をもって活動に打ち込んでいく考えです。そして、現場と国政の間を、私の好きなテニスのボールのように素早く往復し、現場の声を施策に反映していきたいと考えています。

今年には天皇陛下が御退位され、元号が変わる大きな節目の年です。新しい時代の始まりの年でもあり、土地改良にとっても大きく羽ばたく年にしなければなりません。皆様の土地改良に対する熱い思いと大きな力を、私、宮崎まさおに賜りますようお願いいたします。

むすびに、本年が皆様にとって実り多き年となりますように祈念いたしまして、私の新年のご挨拶といたします。

宮崎まさお7つのチャレンジ

1. 土地改良の安定的な予算確保にチャレンジ
2. 災害に強い農山漁村づくりにチャレンジ
3. 農地や水を守り育てる体制の強化にチャレンジ
4. 自然豊かな美しい農山漁村の継承にチャレンジ
5. 世界に日本の農林水産業と農山漁村のすばらしさの発信にチャレンジ
6. 女性の視点を大切にした農山漁村政策の展開にチャレンジ
7. 農林水産業と農山漁村への国民の理解づくりにチャレンジ

第41回全国土地改良大会(宮城大会)への参加

平成30年10月16日(火)第41回全国土地改良大会(宮城大会)が、宮城県総合運動公園(グランディ21)において、約6000人を集め盛大に開催され、和歌山県内からは、43名が参加しました。

宮城大会は、「先人の意思を受け継ぐ『伊達の地』に 水土里の絆 復興の歩み」をテーマに東日本大震災からの復興を全国の農業者、水土里ネット、行政関係者などに広く発信し、感謝の意を表する大会として行われました。

冒頭、宮城県土連の伊藤会長の開催挨拶に続いて、全土連の二階会長による主催者挨拶がなされました。

式典に続いて行われた土地改良事業功績者表彰では、南紀用土地改良区の松川嘉之理事長が、農村振興局長表彰、また紀の川左岸土地改良区の和田敬視理事長が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞されました。松川理事長は、代表で表彰状を受け取りました。



翌、17日(木)から現地視察があり、和歌山県からの参加者は、南部・中央コースとして、17日(木)には、県南部の亘理(わたり)町で取り組まれている被災地域農業復興総合支援事業吉田地区の特産「いちご」の大規模ハウスの見学や山元町で農村地域復興再生基盤総合整備事業による大規模な太陽光発電所の整備状況などを見学し、また、18日(金)には、直轄特定災害復旧事業、直轄災害復旧関連事業仙台東部地区で行われているほ場の大区画化の現場を見学し、広大な水田地帯に驚かされたところ。併せて、松林の復活のため、多くの苗木が育苗されていました。

その他、震災遺構として保存されている仙台市立荒浜小学校などを見学し、津波の恐ろしさを実感したところ。観光では、青葉城址などを見学しました。



平成30年度農業農村整備の集い(11月)への参加

平成30年11月14日(水)、全国水土里ネットと都道府県水土里ネットの共催による「農業農村整備の集い」が、シェーンバッハ・サボーにて盛大に開催されました。本県からは、中村副会長をはじめ32名の会員が参加しました。

6月の集いに続けて本年度2回目となりますが、年末の概算決定に向け土地改良予算の満額確保を目指し、全国から集まった土地改良関係者により国への要請文が決議されました。

主催者挨拶で二階会長は、当初予算確保や来夏の参議院に擁立予定の宮崎雅夫氏の支援に「出すからには圧倒的な票で」と語気を強め、進藤金日子参議院議員と共に車の両輪となるよう参加者への士気を高めました。



平成31年度農業農村整備予算の確保に向けた提案活動

平成30年11月14日(水)、農業農村整備の集い終了後、自民党本部の総裁会議室において、和歌山県国営総合農地防災推進協議会(会長 紀の川市長 中村慎司)、和歌山県土地改良事業団体連合会(会長 二階俊博衆議院議員)、和歌山県ため池保全整備連絡協議会(会長 由良町長 畑中雅央)からの提案活動として、中村紀の川市長(県土連副会長)、横地藤崎井土地改良区理事長(ため池保全整備連絡協議会副会長)らが合同で、平成31年度の農業農村整備事業予算の確保、事業推進等に係る提案活動を二階幹事長と鶴保参議院議員に対して行い、ため池対策などについて参加の皆さんと歓談しました。

その後、県選出国會議員に対して、議員会館の各部屋に提案活動を行い、翌、15日(木)には、農林水産省農村振興局、財務省、総務省に対して提案活動を行いました。

今回は、石田衆議院議員が総務大臣に就任されたこともあり、地方財政措置の拡充についての提案活動を予定していましたが、政務の都合で取りやめとなり残念でした。



和歌山県土地改良区役職員研修の参加

平成30年11月28日（水）から29日（木）にかけて、会員の18土地改良区の役職員、県の農業農村整備課による役職員研修が行われました。参加者は33名。

愛知県の水土里ネット明治用水で法改正により課題となっている複式簿記会計について、女性部の活動について、また、広報活動について意見交換を交えた研修を行いました。

29日には、国営木曾川総合農業水利事業などにより、干ばつや洪水被害を克服し、県下有数の農業地帯の農業水利を管理する海部土地改良区で水管理の大切さを学びました。



第5回わかやまの棚田・段々畑サミットへの参加

平成30年10月10日（水）から11日（木）にかけて、第5回わかやまの棚田・段々畑サミットが海南市の市民会館にて開催されました。県内の土地改良関係者の多くの参加がありました。テーマは、「地域の魅力に、気づき、学び、活かす」とし、今までの5年間のサミットを振り返り、今後を考えるとしていました。

NPO法人棚田ネットワーク代表の中島峰弘氏の基調講演やパネルディスカッションなどが行われ、今後の棚田保全活動について熱心に話し合われました。

今回、和歌山の美しい棚田・段々畑として『下津町方の段々畑』が新たに認定されましたが、方の段々畑は、方地区土地改良区が管理する畑地かんがいにより、良質なみかん栽培が営まれている地域です。



平成30年度第2回監事会及び理事会の開催について

平成30年度第2回監事会が12月7日（金）に和歌山県土地改良事業団体連合会の役員室にて、第2回理事会が12月10日（月）にアバローム紀の国において開催されました。

監事会では、平成30年度の会計予算の補正についてを議事として、各監事から意見を戴き、理事会では、平成30年度会計の中間執行状況報告並びに会計予算の補正について審議され、承認されました。

農業農村整備事業平成31年度当初予算、平成30年度補正予算が閣議決定

農業農村整備事業(公共)の平成31年度当初予算は、農業の競争力強化や農村地域の国土強靱化を踏むため、農地集積の加速化・農業の高付加価値化のための農地の大区画化・汎用化や水路のパイプライン化、水路・ため池等の農業水利施設の長寿命化や豪雨・耐震化対策等を推進するための予算として、3,771億円が概算決定されました。

農業農村整備関連事業(非公共事業)及び農山漁村地域整備交付金の農業農村整備分と併せると対前年比114.1%の4,963億円となりました。

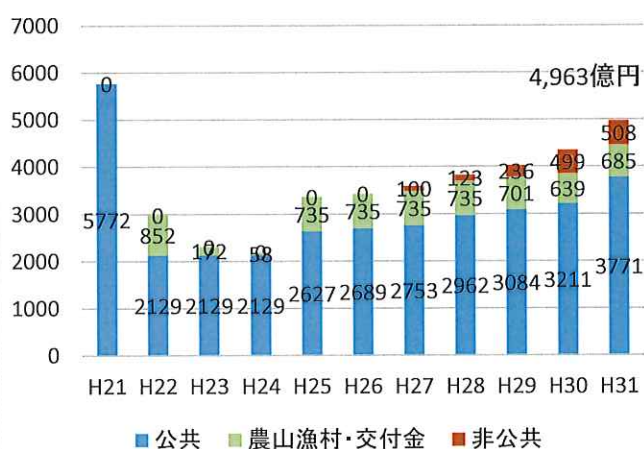
平成30年度2次補正を併せると、6,451億円となり、平成21年度の予算削減前の水準を大きく上回りました。

平成31年度予算概算決定

(単位:億円)

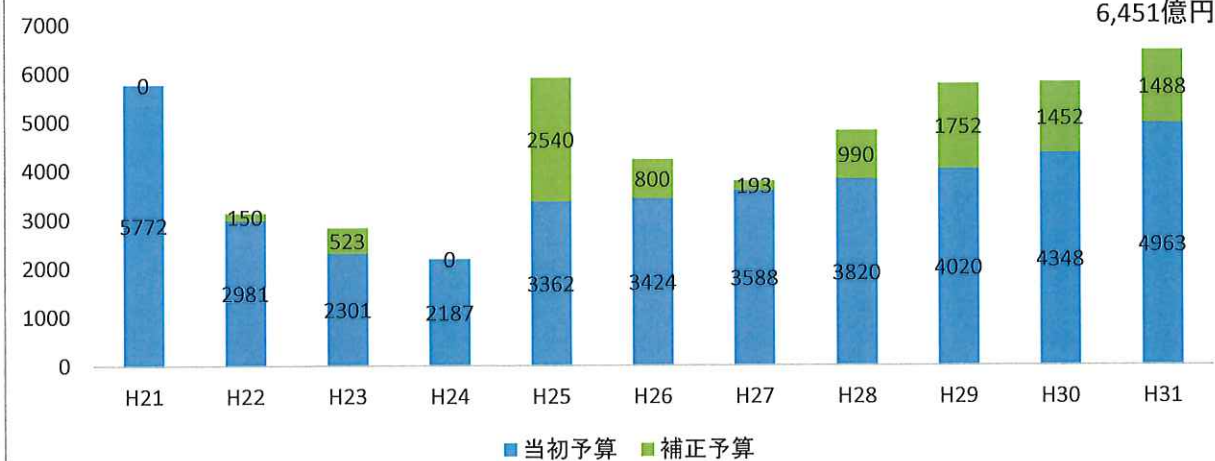
| | H30 | H31 | |
|--------------------------------|-------|-------|--------|
| | 予算 | 概算決定 | 前年度比 |
| 農業農村整備事業(公共) | 3,211 | 3,771 | 117.4% |
| 農業農村整備関連事業(非公共) | 499 | 508 | 101.8% |
| 農地耕作条件改善事業 農業水路等長寿命化・防災減災事業 | | | |
| 農山漁村地域整備交付金(公共) (農業農村整備分) | 639 | 685 | 107.2% |
| 計 | 4,349 | 4,963 | 114.1% |

億円 農業農村整備事業関係予算(当初)の推移



億円

農業農村整備事業関係予算(当初+補正)の推移



水土里ネット和歌山からのお知らせ

- (1) 第61回和歌山県土地改良事業団体連合会の通常総会を以下のように予定しています。

平成31年3月23(土) 「ルミエール華月殿」にて開催

| | |
|-------|----------|
| 通常総会 | 15時～16時半 |
| 役員会 | 16時半～17時 |
| 会員懇親会 | 17時～19時 |

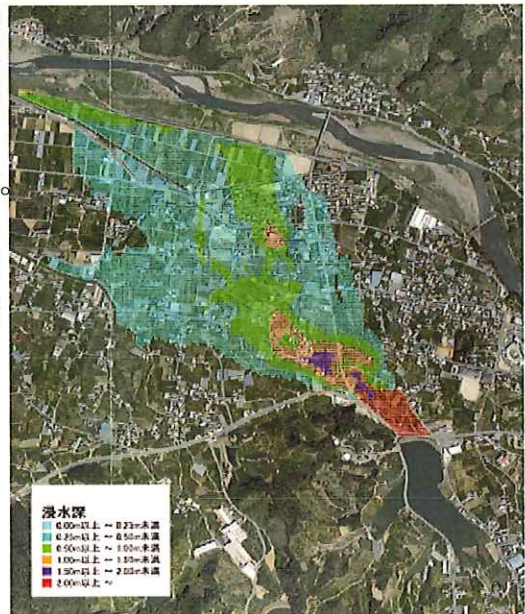
来賓として、知事、都道府県水土里ネット会長会議顧問の宮崎まさお氏ほかを予定しています。

- (2) 水土里ネット和歌山の主要な業務の一つとして、水土里情報システムを活用した以下の取り組みを行っていますので紹介します。

当連合会が所有している農研機構農村工学研究所が開発した、ため池氾濫解析ソフトを用いて県内5,537ヶ所のため池の総貯水量、ため池の座標値、国土地理院基盤地図情報(5mメッシュ標高)から、決壊時、その貯留水が標高に沿って流下する状態を数値上でシミュレーションをおこない氾濫解析が出来ます。

この氾濫解析結果を基に和歌山県水土里情報システムに反映し、浸水範囲を属性として想定被害状況を表示する事により、想定被害状況が視覚的に把握することができ、膨大なデータとなる被害数値も容易に管理することが出来ます。

また、和歌山県水土里情報システムを用いることにより広域的に複数のため池決壊区域を表示することができ、ハザードマップ作成の優先順位の検討も容易に行え、被害農地を作物別、所有者別に集計することも可能です。



ため池の防災減災対策に水土里情報システムを活用いただきたい。

【編集後記】

平成31年度の当初予算は、平成30年度の第2次補正予算を合わせると、約640億円と大幅増となりました。ひとえに皆様方の御陰です。

水土里ネット和歌山として、できる限り会員の皆様に土地改良に係る様々な情報をお届けしたいとの思いで平成31年からは年3回の広報誌(「水土里ネットの和」)の発行を目指しています。当会のHPもリニューアルしました。

個々の土地改良区紹介も行っていきたいと考えていますので、今後ともご指導、ご鞭撻をよろしく願いいたします。